

『食堂かたつむり』 小川糸、ポプラ社

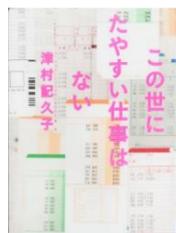
恋人にすべてを持ち去られた倫子は、声を失い、山あいの故郷に戻ります。やがて一日一組の客をもてなす食堂を始めた倫子。メニューのない食堂で、人はゆっくりと、再生していきます。



『この世にたやすい仕事はない』

津村記久子、日本経済新聞社

20歳になるみなさん。今働いている方も、これから働く方も、仕事をすると色々考え悩むことが出てくると思います。この世には本当にはかりしれない未知の世界があります。不思議なこの本の世界にひきこまれ、改めて自分の仕事のやりがいを感じる1冊です。



『ひらめきスイッチ大全』 サンクチュアリ出版

ダ・ヴィンチ、エジソンから任天堂、ユニクロまで。古今東西のあらゆるアイデアのひらめき方225個を、1冊の本に集めました。何かに迷ったとき、良いアイデアが浮かばないとき、パッと開いてみると、世界を変えるアイデアがひらめくかもしれません！



『夜を乗り越える』 又吉直樹、小学館

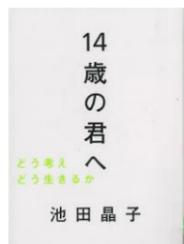
芸人で芥川賞作家の又吉直樹。少年期からこれまで読んできた数々の小説を通して「なぜ本を読むのか」「文学の何がおもしろいのか」「人間とは何か」を考えます。読むときっと読書したくなるはず。



『14歳の君へ どう考えどう生きるか』

池田晶子、毎日新聞社

毎日色々な嫌なことがあります。なぜ「嫌だ」と感じるのか考えてみたことはありますか？流れるように過ぎていく時間の中で、物事を深く「考える」のは難しいです。この本は著者の力を借りて、日頃のもやもやについて考えることができます。一度立ち止まって「これまで」と「これから」を考えてみませんか？



『ぼくをさがしに』 シルヴァスタイン、講談社

欠けた丸である「ぼく」は足りないかけらを探しに行きます。晴れの日も雨の日も探します。そして自分にぴったりのかけらを見つけたとき何を感じるのか。まっすぐになりすぎて、見えなくなっているものはありますか？



『思考の整理学』 外山滋比古、筑摩書房

ものの考え方、そして考えたことの整理の仕方について、分かりやすい言葉で著者が語ります。「考えるのは面倒なことと思っている人が多いが、見方によってはこれほど、ぜいたくな楽しみはないのかもしれない。(あとがきより)」考えることの楽しさを教えてくれる本です。



『名作うしろ読み プレミアム』

齋藤美奈子、中央公論社

さまざまなジャンルの名作137冊のラスト一文から読み解く文学案内です。見開き1ページ1冊の紹介なので、読みやすくおすすめです。



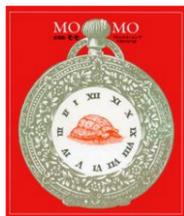
『しあわせのねだん』 角田光代、晶文社

昼めし977円、鞆59,000円…等々、日常で使われゆくお金と、それにまつわるひたむきな思いをつづったエッセイ。成人するとお金を使う頻度が増えます。お金を使うことにより見えてくる自分の幸福の形を模索してください。



『モモ』 ミハエル・エンデ、岩波書店

時間どろぼうとぬすまれた時間を人間にとりかえしてくれた少女モモの不思議な物語。時間に追われ、本当の豊かさを忘れていませんか？本当に大切なものは何なのか、気付かされる物語です。



『戸村飯店青春100連発』 瀬尾まいこ、理論社

大阪の超庶民的中華料理店、戸村飯店の2人の息子。要領も見た目もいい兄ヘイスケと、お調子者で単純な性格の弟コウスケ。家族や兄弟でも、折り合いが悪かったり波長が違ったり。大阪と東京で兄弟が自分を見つめなおす、笑って泣ける、あたたかい青春物語。



『急がない』 葉祥明、日本標準

やるべきことがたくさんあって時間があつという間に過ぎていくようで焦ってしまう日々。淡々と語りかけるような文章を読むと落ち着いてきます。実はそんなに急ぐことはないのかもしれない。読むときの状況によって、ぴったりと感じる部分が変わる1冊です。



『戦場のコックたち』

深緑野分、東京創元社

合衆国軍の新米コック兵チームが、仲間とともに戦場で起こったミステリーに挑みます。試練をくぐり抜け成長していくチームの姿に思わずひきこまれます。



『オシムの言葉 フィールドのむこう』

に人生が見える』 木村元彦、集英社

サッカーの元日本代表監督イビチャ・オシムを覚えていますか？彼が2003年Jリーグのチームにたどりつくまでには政治や内戦に翻弄されたサッカー人生がありました。



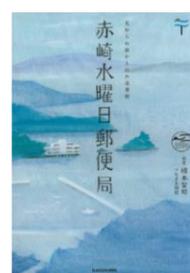
『せかいいちのねこ』 ヒグチユウコ、白泉社

かわいいぬいぐるみの猫のお話です。本物の猫になって、世界一の猫になって、ずっと大好きな男の子の側にいたいと願う猫。旅の途中で本物の猫たちに出会い…。他人を真似るのではなく、自分が何をできるか、どう思うかによって人生の意味は違ってきます。どう生きるかは自分次第！



『赤崎水曜日郵便局』 楠本智郎編著、KADOKAWA

“自分の水曜日の物語”を手紙に書いて送ると「知らない誰かの水曜日」が届く。熊本県南部の小さな町のアートプロジェクトとして開局した赤崎水曜日郵便局。手紙には人々の喜びや悲しみ、平凡な日々が素直に綴られていて、見過ごしがちな自分の日常にある大切なものに気付かせてくれます。



『スマートに生き抜くための大人のマナーと作法大全』 成美堂出版

運命の人との出会い方、成長を促す叱り方、宴会芸を楽しむ作法、トビウオになる泳ぎ方、看病に必要なりんごのむき方…など。人生を楽しくスマートに生き抜くための大人のためのマナーと作法の本です。一生使わないであろうネタ的作法もありますが、いざというとき役に立つかも！



『走れ！移動図書館 本でよりそう』

復興支援』 鎌倉幸子、筑摩書房

被災者の心の回復には本が必要だ！東日本大震災直後に立ち上げられた「本」を届ける移動図書館プロジェクト。その誕生から現在までを綴った本です。どんなときでも心の渇きを癒す「本の子カラ」を感じられる1冊です。



『SAPEURS』 ダニエーレ・タマーニ、青幻社

非暴力的に平和を願う SAPEURS (=サブール)。エレガントな生き方を貫く彼らの洗練された着こなしは必見です。格好いい大人とはこういうことです。



『大切にしたい、につぼんの暮らし』

さとうひろみ、サンクチュアリ出版

日本には四季があり、季節ならではの行事や風習があります。大切にしたい季節の行事の意味や由来、旬の食材を楽しむレシピなど、分かりやすく紹介した和のガイドブック。日々の生活をより豊かに、輝いたものにするための1冊です。

